

## ご挨拶

春風の候、みなさまにおかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

「2018年5月イタリア事業」を実施した文化財保存科学研究部会は、2007年1月に比較文化研究所の研究組織として設立されました。本研究部会は文学部の教員を中心に、医学部・経済学部の教員も含む学際研究組織としてスタートし、さらに、三輪嘉六氏（当時九州国立博物館長）・中野三敏氏（当時九州大学名誉教授）・松枝哲哉氏 松枝小夜子氏（久留米絃）・溝田俊和氏（八女手漉き和紙）・近藤早苗氏（農業）を正式に「研究協力者」として受け入れ、多様な方々と連携して継続的な研究活動を行なってきました。また海外への展開も当初より視野に入れ、特に文化財を多く有するイタリアの諸機関や専門家の方々とは積極的な交流を実践してきました。

10年余に及ぶ以上の活動が実を結び、このたび、本研究部会は国際交流基金の助成を受け「久留米大学 文化財保存科学研究部会（日本文化紹介：筑後伝統工芸）イタリア レクチャー・デモンストレーション・ワークショップ」と題する事業を、ローマとフィレンツェで開催することができました。ここにささやかな「報告書」をお届けいたします。ご覧いただければ幸いに存じます。

久留米大学を含む公的機関の助成と、事業の趣旨を理解して下さった皆様のご寄付によって成り立った事業でした。関係者一同、みなさまのご支援を、心より感謝申し上げます。

2019年3月29日

事業責任者 狩野 啓子